

私たち民医連は、無差別・平等の医療と福祉の実現をめざす組織です

発行所 宮城県民主医療機関連合会
仙台市青葉区木町通1-8-18
〒980-0801 田村ビル5F
TEL 022-265-2601
FAX 022-263-8266
e-mail: dai@miyagi-min.com
発行人 坂田 匠
1日・15日 月2回発行 1部 50円

宮城民医連 第43回 定期総会

日時▶6月12日(日)
9:00受付開始 9:30開会
場所▶フォレスト仙台2階
「フォレストホール」
及びオンラインでのハイブリット形式

みやぎ民医連



宮城県議会議員への報告会で挨拶する宮沼弘明会長

2021年度災害公営住宅健康調査 生活上の不安はむしろ 増加している

3月3日、宮城民医連は2021年度災害公営住宅健康調査の結果について、県議会棟心接室で、記者会見を県政記者会で行いました。宮城民医連からは、宮沼弘明会長、矢崎とも子副会長、坂田匠事務局長ほか3名が参加しました。

県議会への報告会には、みやぎ県民の声、日本共産党、社民フォーラム、緑風会、無所属の会の5会派から14名が参加。記者会見には3つのテレビ局と新聞各社が参加しました。

矢崎副会長は資料を示しながら、603件の調査結果について報告。1人世帯が初めて半数を超えて、県議会への報告会を県議会棟心接室で、記者会見を県政記者会で行いました。宮城民医連からは、宮沼弘明会長、矢崎とも子副会長、坂田匠事務局長ほか3名が参加しました。

医療や健康にかかわる回答では、「災害公営住宅入居後に健康状態が悪化した31%」「治療に必要な病気を抱えている72%」「体調が悪くても受診を我慢することが多い17%」。受診を我慢する理由の48%が医療費の問題でした。

経済的負担や生活上の不安にかかわる回答では、「家賃の支払いが大変苦しい・やや苦しい53%」「生活が大変苦しい・やや苦しい63%」。

い・やや苦しい63%」。すべての年代で生活が苦しいと答えた割合が半数を超え、特に40～50代の生活困窮が著しい結果となりました。今後の心配ことは「病気60%」「収入・生活費53%」「将来の家賃47%」「介護37%」。これらの項目すべてで、心配する人の割合が年々増加しています。

社会参加にかかわる回答では、「社会活動に参加していない62%」「困った時の相談相手がいらない23%」。住宅内の孤独死、自死を聞いた事があると答えた方は100名を超え、今後も増えることが予測されます。

今回の調査ではコロナ禍による健康状態や社会参加への影響についても検討。「コロナ禍で健康状態が悪化した22%」「経済状況が悪化した33%」「人付き合いがなくなった・減った47%」という結果になりました。

矢崎副会長は報告の最後に、「経年的に見ても、被災者の健康状態や生活は依然厳しく、生活上の不安はむしろ増加している」と述べ、11年目以降も継続した支援が必要であると訴えました。



報道陣から質問を受ける

いる人ほどその影響が著しい」と述べ、経済的支援や孤立を防ぐ対策の具体化を求めました。

調査結果を踏まえ、宮城民医連として県および市町村に対して、災害公営住宅における生活健康調査の再開と自治会活動やコミュニティづくりへの支援、医療費や家賃等の経済的負担の軽減を要望しました。

報告会に参加した県議の方からは、「直接県や市町村にも実態を伝えてほしい」「災害公営住宅での全体的な健康調査は必要」「引き続き健康の問題にしっかりと取り組んでいきたい」「自治会運営が困難になってきている災害公営住宅もあり、対応が求められていることを改めて感じました」等の意見が出され、前向きな意見交換の機会となりました。

今後、宮城民医連は、今回の調査結果を県や各市町村へ伝え、被災者支援の具体化や拡充を訴えていきたいと考えています。

いのちを守り、地域に根差す民医連として、これからも被災者に寄り添い、共に声を上げる取り組みをすすめます。

(県連事務局 瀬戸友紀乃)

調査結果の説明をする矢崎とも子副会長

子ども達の未来を 核兵器のない平和な世界に

社会福祉法人宮城厚生福祉会 古川ももの木保育園 保育士 下村 歩惟

3月1日、オンラインで行われた、3・1ビキニデー集会に参加しました。

集会の第一部では、オーストリア外務省軍縮・軍備管理・不拡散局長、アレクサンダー・クメント氏、中野弘道焼津市長、濱住治郎・日本原水爆被害者団体協議会事務局次長による来賓あいさつ、広島市長、長崎市長によるメッセージが寄せられました。

原水爆禁止世界大会実行委員会運営委員会共同代表の千坂純氏は、主催者報告の中で、ロシアによる核兵器の威嚇を背景にした無法なウクライナへの侵略に強く抗議するとともに、被爆者への支

援と、原水爆禁止世界大会にむけて世論を広げていくことを呼びかけました。

第2部では、「広島、長崎、ビキニの被災と現在、被災者の救済」をテーマとした、パネル討論が行われました。パネリストの方々の報告からは、これまで必死に声を上げ、現状を変えようとたたかい続けてきた人々の苦悩や、核兵器のない平和な世界への願いが強く感じられました。

野口邦和・原水爆禁止世界大会実行委員会共同代表によるパネル報告の中に、『被害者は社会的弱者』であるとの一文がありました。『国益の保護』という大義名分で開



発された核兵器や、それに伴う実験によって、どれほど多くの罪のない人たちが今なお苦しめられているのでしょうか。

まさに今、遠いウクライナの地で、何の罪もない人たちが、戦火の中、苦しみ傷ついています。核兵器の威嚇を背景にし、ウクライナでもロシアでもたくさんの命が失われています。今こそ、

より多くの人たちで、核兵器のない平和な世界へと歩んでいくよう、声を上げていくことが大切なのではないかと思えます。

保育士として、いま目の前にいる子ども達、そして、これから生まれてくる子ども達の未来が核兵器のない平和な世界であることを願っています。

卒業・入学シーズンに一斉に咲きまた散っていく様子から、出会いと別れを連想させる桜の花。老若男女問わず親しまれる春の風物詩です。▼今では「お花見」桜」というイメージですが、かつてはお花見の主役は梅でした。お花見という文化ができたのは奈良時代の頃、遣唐使によって中国から持ち込まれた梅を貴族が好んで鑑賞するようになったのが始まりとされています。遣唐使が廃止された後はもともと日本に自生していた桜の人氣が広まり、平安時代以降には「春の花」のイメージが梅から桜へと変化していきました。▼現代のように桜の木の下で宴会を楽しむようになった大きなきっかけは、鎌倉時代の「醍醐の花見」と言われています。豊臣秀吉が慶長3年の春に催した盛大なお花見会で、集まった人は約1300人にも上りました。舞台となった醍醐寺では、現在でもこれにちなんで毎年「豊太閤花見行列」というイベントが開催されています。江戸時代には庶民の間でもお花見が広がっていき、今では日本で最も有名な桜である「ソメイヨシノ」もこの頃誕生しました。▼暖かな春の日差しの中桜の木の下で、みんなでワイワイ楽しい時間を過ごしたいですね。

県連中堅看護師研修会

SDHの考えをもっと関わる必要がある

坂総合病院 看護師 三浦 茂也

2月28日に県連中堅看護師研修の研修発表会を行い、24名(坂17名、長

町3名、泉2名、古川2名)が参加しました。

はじめに、しおかぜ訪問看護ステーションの

渡邊恭子所長より「地域包括ケアシステムにおける訪問看護ステーションの役割と病院との連携」の講演がありました。

その後には45人のグループに分かれて、ケーススタディ研修でそれぞれが学んだことを話し合い、その後各グループから発表してもらいました。

今年度のケーススタディ研修は、新型コロナウイルスの感染拡大のため、ケーススタディ研修の受け

入れ状況を確認しながら実施しました。利用者宅への訪問はできなかったものの、各ケーススタディの協力によって、ケーススタディでの看護師の役割や連携の状況について話を聞くことができました。

研修発表会は、各事業所に研修者が集まり、Zoomで繋ぐハイブリッド形式で実施しました。各事業所にケーススタディのスタッフが参加し、助言をいただきました。

研修者からは「社会的な需要の高まりから、訪問看護ステーションの必要性を強く感じた」「治療や病気のだけでなく、

当時の出来事を子ども達に伝えたいと、五歳児の担任が子ども達に地震や津波の話をしました。子どもからピンとくるような反応が少なかつた。だから何か違う形で伝えたいと思う」と話があり、職員が昨年作った『あの日の保育園』(当時の状況を絵に描いた)を掲示し、震災について折り鶴と共に保護者や職員にメッセージを寄せてもらいました。

数日後、私がメッセージを読んでみると五歳児が近づいてきて「ママね。地震知らないんだって、折り鶴はママが作ったよ」と教えてくれました。



研修中の様子



坂総合病院教育ステーション会場

日本政府に核兵器禁止条約への署名を求め
小さな声でも上げ続けていこう

宮城厚生協会本部事務局 小野寺 知洋

来年以降も新型コロナウイルスの影響は続くと思われま。今後の中堅研修の内容やケーススタ

シヨンの研修を、どのような方法で行うことが適切なのか考えていく必要があると思います。

ロシアによって引き起こされたウクライナへの武力侵攻が行われている2022年3月5日、みやぎ反核医師・歯科医師の会総会とオンライン講演会が行われました。

オンライン講演会の講師は、長崎大学核兵器廃絶研究センター特任研究員の林田光弘氏で「核兵器廃絶へむけてわたしたちができること」というテーマで講演しました。

林田氏は、高校時代から高校生平和大使として国連で開催されたNPT再検討会議に参加、大学入学後はNPO法人ピースデポユースとしてNPT再検討会議に参加しており、ヒバクシャ国際署名キャンペーンリーダーを務め、署名活動の広報を担っていました。

講演冒頭に、今回のウクライナ侵攻は、1月4

日に国連安保理常任理事国で、ロシアを含む核保有国5か国が核の拡散防止の重要性、軍縮に努めていく姿勢を強調する共同声明を発表した直後の「ロシアの愚行」であり、

国連憲章違反であることもに核不拡散条約(NPT)第6条が定めた誠実な軍縮交渉義務に背く行為であると激しく批判しました。

2021年1月に発効された核兵器禁止条約に、世界で唯一の被爆国である日本政府が署名をせずに背を向けていることを守る医師・歯科医師の会として、ロシアによるウクライナ武力侵攻と核による威嚇に強く抗議し、軍事行動の即時停止を求めるものである」との抗議声明を、みやぎ反核医師・歯科医師の会の杉目博厚共同代表が読み上げました。

みやぎ反核医師・歯科医師の会の活動の今後の力の源となる講演会でした。

クイズの解答は事業所名氏名職種を記し県連事務局に送って下さい。メールは不可。ファックスは可。正解者に抽選で5人に図書カードを進呈いたします。余白に日頃考えている事などを書き添えて下さい。「声」の欄に掲載させていただきます。応募資格は臨時・パート含む県連職員。締切4月27日当日消印有効。発表5月15日。2月1日号答え「ユキニ(雪国)・応募総数10件。当選者「武井正美」坂総合病院、熊谷美香/古川民生病院、千葉幸子/松島医療生協おたつしやデイ、芳賀明子/南光台地域包括センター、村上君枝/田子のまち(敬称省略)



林田光弘氏の講演

とを正すためにわたしたちができることは、小さな声でも上げ続けていくことだと強調しました。特に被爆者の想いを受け取った若い人達の発信が、これからの核兵器廃絶・軍縮に向けた運動には大切で必要だと感じました。

最後に現地に集合した医師・歯科医師全員で平和へのメッセージを掲げ、「今まさに進行する非人道的、破壊的な愚行に対し、理性に基づくあらゆる努力と行動が求められている。私たちは命を守る医師・歯科医師の会として、ロシアによるウクライナ武力侵攻と核による威嚇に強く抗議し、軍事行動の即時停止を求めるものである」との抗議声明を、みやぎ反核医師・歯科医師の会の杉目博厚共同代表が読み上げました。

みやぎ反核医師・歯科医師の会の活動の今後の力の源となる講演会でした。

クイズの解答は事業所名氏名職種を記し県連事務局に送って下さい。メールは不可。ファックスは可。正解者に抽選で5人に図書カードを進呈いたします。余白に日頃考えている事などを書き添えて下さい。「声」の欄に掲載させていただきます。応募資格は臨時・パート含む県連職員。締切4月27日当日消印有効。発表5月15日。2月1日号答え「ユキニ(雪国)・応募総数10件。当選者「武井正美」坂総合病院、熊谷美香/古川民生病院、千葉幸子/松島医療生協おたつしやデイ、芳賀明子/南光台地域包括センター、村上君枝/田子のまち(敬称省略)



"Stop war in UKRAINE"

環境問題と私

第5回

柳生もりの子保育園 大門 祐子

春の日差しがなかなかに暖か。ももは元気に園庭を走り回って遊んでいます。まだまだ、新型コロナウイルス感染症対策に予断を許されない状況が続いています。保育園も社会機能を維持するための施設として職員一同頑張っています。

先月、3月12日に卒園式を行いました。一人一人に卒園証書を手渡すことができた。改めてこの子ども達の未来がどの子も夢が叶えられる社会になっいてほしいと思いました。

卒園式の前日は、東日本大震災から11年目で、当時と同じ日程でした。

当時の出来事を子ども達に伝えたいと、五歳児の担任が子ども達に地震や津波の話をしました。子どもからピンとくるような反応が少なかつた。だから何か違う形で伝えたいと思う」と話があり、職員が昨年作った『あの日の保育園』(当時の状況を絵に描いた)を掲示し、震災について折り鶴と共に保護者や職員にメッセージを寄せてもらいました。

数日後、私がメッセージを読んでみると五歳児が近づいてきて「ママね。地震知らないんだって、折り鶴はママが作ったよ」と教えてくれました。

た。」「そうか。ママと地震のことお話ししてくれたんだね。お話しして考えてくれることが先生は嬉しいよ」と伝えました。

3月16日深夜の震度6強の地震でも当時を思い出し、強い揺れに怖さを感じました。福島原発や女川原発のことも今後どうなるのだろうか心配になりました。

未来を担う子ども達のために安全・安心なエネルギーを手渡していきたいと思ひます。柳生もりの子保育園には2015年に『きらきら発電』に設置していただいた太陽光発電があります。2020年には宮城厚生



宮城厚生協会本部事務局 小野寺 知洋

宮城民医連第43期役員立候補告示

宮城民医連役員選出規程に基づき第43期宮城民医連役員立候補(自薦・他薦)を左記のように受け付けます。

宮城民医連役員に立候補(自薦・他薦)される方は、事業所・部門の承認を受け、「役員候補者経歴書・確認書」に記入の上、宮城民医連42期役員選挙管理委員会まで送付してください。

一、受付期間 2022年4月12日(火)～2022年5月23日(月)

一、立候補資格 宮城民医連および加盟事業所の役員であること

一、送付先 〒980-0801 仙台市青葉区木町通1-8-18 田村ビル5階 宮城民医連 役員選挙管理委員会担当事務局 宛

FAX: 022-263-8266 E-mail: dai@miyagi-min.com

2022年3月28日

宮城民医連第42期役員選挙管理委員会